

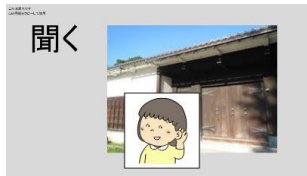
01-02-05 赤ちゃんの泣き声は“ことば”

最近、犬や猫の鳴き声を翻訳する器械が売られているという話を聞きました。ただ吠えたり鳴いたりしているだけだと思っていた犬や猫がしゃべっているという漫画のような世界が現実を示されたことになりました(しかし、愛犬家や愛猫家には評判が良くないとのことですが)。

一方、お母さん方は、赤ちゃんの泣き方が常に同じではないことに気付いていると思います。予防注射の直後に「わあ〜っ、痛い〜」と悲鳴を上げた時の泣き声は、お母さん方にとっては、「どうしよう、どうしよう」と思うような泣き方をします。そのつもりで聞くと普段でも赤ちゃんの泣き方が違うことに気付くと思います。新米(しんまい)お母さん方にとって、赤ちゃんの泣き声を単に“泣き声”として聞くか、“ことば”として聴くかで子育ての楽しさが変わってきます。赤ちゃんは、「お腹がすいたよ〜」「眠いよ〜」「遊んでほしいよ〜」などと全てを“泣き声”等で訴えています。また、機嫌のいいときは「アー」「ウー」「クー」といった声も出すことがあります。赤ちゃんの泣き声に答えて「お腹すいたの?」「おしり大丈夫?」などと話しかけながら、泣き声の意味を探ってみてください(“泣いたら母乳”の稿参照)。赤ちゃんは、“泣き声+α”でお母さんとコミュニケーションをとろうとしています。また、生後3~4か月頃になると、お母さんの顔(目)を見てニコッとします。お兄ちゃん・お姉ちゃんの子はニコニコ顔がまた違います。赤ちゃんは日に日に成長しています。『赤ちゃんは何も言ってくれない』ではなく、“赤ちゃんは、何か言っている”と信じて、赤ちゃんに話しかけて、赤ちゃんの“ことば”を聴きながら、赤ちゃんとの“会話”を楽しんでください。

聞く:

門に耳をあてて
中の様子を伺(うかが)う。
中の様子は見えていません。



聴く:

耳と目
と心で
理解する。

